

児童・生徒の現状・課題

生徒たちは学習への意欲をもって課題に取り組むものの、困難に直面すると諦めてしまう傾向がある。また、次の手段を考えて行動に移す力が不足しており、自分自身の学びの進捗を振り返り、「どこができなかったのか」「どう改善するか」を深く考える機会が十分に設けられていない。

学び続ける力を育むための重点目標

生徒が自分自身の学びを主体的に進めるために、理解度や進捗を振り返りながら学習する習慣を身につける。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	66.3%	75%	69.7%
②授業の始めには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題や目標を確認したりしている。	74.9%	82%	74.8%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	62.9%	70%	82.7%
②ねらいや流れを明確にし学習の見通しをもてるように、見通しの場面を設定している。	96.3%	98%	100%

総括(8月)

全国学力学習状況調査では、本校は全国平均を超える部分もあるものの、特に思考力を問う問題には課題がみられる。その背景には、授業が受け身的になりがちで、生徒が自ら目標を立てて学び方を選択する機会が不足していると考える。そのため、日常的に生徒が学び方を選び、目標を意識できる場面を設けるようにする。また、調査結果では、教員が「学習の見通しを生徒に持たせる場面を設定している」とする肯定的な意見が96.3%に上る一方、生徒側では「授業の始めに目標や課題を確認している」と感じる意見が74.9%にとどまっている。このギャップを解消するため、生徒が学びを選択し振り返る機会を増やし、教員と生徒が学習目標を共有し理解を深める取り組みを進める。

総括(1月)

教員調査では「見通しの場面設定」が100%に達し、全教員が意識的に授業改善に取り組んだ成果が表れた。特にICT活用については、多くの教員が新しい教材やツールを積極的に試行し、教員間で情報共有を行う機会も持たれている。一方、生徒の「振り返り・目標確認」の実感は74.8%と横ばいで、教員側との間に約25ポイントの差が出ている。これは、単元全体で振り返りを行う教員側と、毎時間の振り返りを想定する生徒側との捉え方の違いや、教科特性、設問の解釈による影響が大きいと思われる。今後は、教員間の前向きな取り組みを土台とし、生徒が自身の学びをより具体的に実感できるような工夫を深めていく。

具体的な手立て①

学習の「見通す」場面をつくる

- ・学習目標と流れの明示:各教科共通で、授業の冒頭に「今日の学習目標」と「全体の流れ」を示し、生徒が目標と流れを理解できるようにする。
- ・学習計画ツールの活用:生徒が授業の見通しをもてるよう、ツールとして「単元(題材)計画」や「目標カード」「振り返りカード」等を活用していく。

具体的な手立て②

学び方を「選択する」場面を設定する

- ・課題解決方法の選択肢を設定:問題やテーマごとに、解決方法を複数提示し、選択させる。
- ・デジタルツールを活用した選択肢の可視化:Googleフォームやオンライン投票ツールなどを用い、生徒がリアルタイムで選んだ内容を可視化し、他者の学び方から学ばせる場面を設定する。

具体的な手立て③

学習の「見直し」や「振り返る」場面を充実させる

- ・振り返りシートの活用:授業の終わりに、「今日の学び」「改善点」を記入するシートを活用する。
- ・相互共有の時間を設ける:生徒同士で学びの内容や進め方を共有し、互いに意見を交換する場を設ける。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・デジタル共有スペースの活用:Classroomやドライブ等を使い、日々の実践やアイデアを簡単に共有できる仕組みを作る。
- ・新教材やICTツールの積極的な試用:新しい教材やICTツールを授業で試し、その成果や課題を全体で共有する。
- ・授業トピック別アイデア格納庫を作成し、振り返りカードやアンケート、ICTアプリ等を共有できるようにする。